

ノドづまり、侮るなかれ

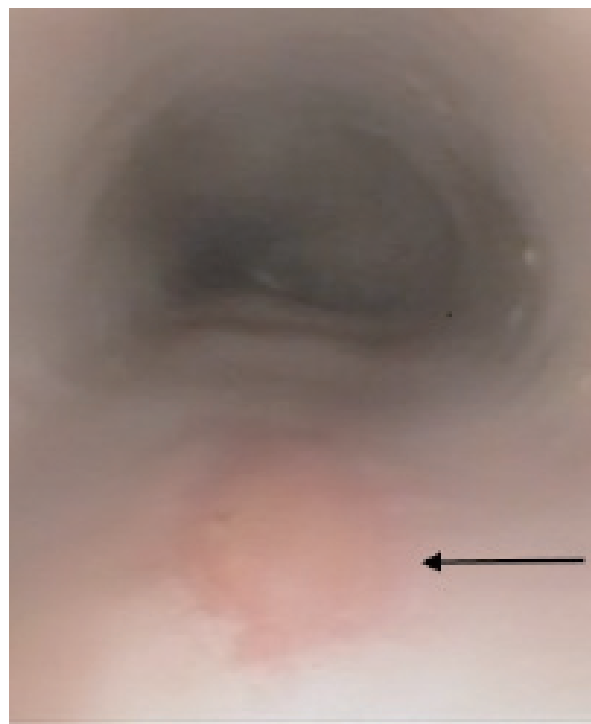
静内支所の前田です。ノドづまり（食道梗塞）って、あまり頻繁に起きない事故かと思いますが、私が入社した時上司からの教えとして「腹痛、難産、ノドづまりは最優先で牧場に向かいなさい」と言われていました。軽く見るととても危ない事故です。過去の事例をいくつか紹介したいと思います。

「風邪ひいたみたいで鼻水たらして咳をしています」

垂らしているのは本当に鼻水でしょうか？鼻から牧草などの食べ物が出ていませんか？食べ物と鼻水の判別ができないはずがない、とお思いかもしれませんが、私一人だけで3例経験があります。食べ物が食道に詰まったまま放置する時間が長いほど食道潰瘍に進みやすく、こうなると絶食期間がとても長くなります。

「時々詰まるけど、詰まったところを手でしごくといつも通過するので大丈夫です」

再発を繰り返しているのは手による刺激で粘膜が悪くなっている可能性があります。この管理を続けていた馬は一部が固くなって食べ物が通過しなくなってしまい、安楽殺になってしまいました。内視鏡検査でも空気で食道が膨らまない状態で、胃までカメラがたどり着きませんでした。獣医さんと呼んで水を食道に送りながら詰まりを除いてもらうようにしましょう。



「無事に詰まりはとれて咳もしないけど、ちょっと元気がないような」

後で体温は測っていますか？食べ物が食道に入らないために喉の周囲に停滞していると、食べ物が気管に入って誤嚥性肺炎を起こしていることが少なくありません。ノドづまりの後に肺炎を発症して斃死した例もあります。

ノドづまりの診療前にできること

口かごをつけて絶食したほうが良いでしょう。ノドづまりは腹痛と違って痛みがひどくないので食べ物が入らなくても食欲があり、これを食欲の許すまま食べさせると肺炎のリスクも高くなります。

効果がどれほどか不確かですが、調馬策運動などはデメリットが少ないでしょう。あまりいろんなことを試みるよりも診療を受けてみましょう。